

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム4

子どもたちの日本語の力を描く、育む

2017年3月5日(日) 聖心女子大学

読みの流暢さ測定ツールの 開発プロセス

渡部倫子（広島大学大学院 准教授）

協同研究者：田畑サンドーム 光恵（ニュージーランド・マッセー大学）
坂野 永理（岡山大学） 松田真希子（金沢大学） 松下達彦（東京大学）

本科研の意義

アーティキュレーションを保証する言語能力アセスメント 実施支援システムの構築

アーティキュレーション（連携：言語の習得目標達成のためのカリキュラム、インストラクション、異なるレベル間の連続性、連携、同じプログラム内のクラスの連続性、一貫性）が欠如しているという日本語アセスメントの課題をふまえ、妥当性の高いアセスメント（評価）実施とその結果の共有を可能とするシステムを構築する

。

本科研の成果

1. 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント（DLA）の実施支援
2. 日本語の取り出し・入り込み授業の指導記録のデータベース化
3. つまづき語（指導が必要であった語）の抽出（中石・建石, 2016）
4. **つまづき語の困難度に対する教師の印象評定（本日のパネル）**
5. 外国人児童生徒のための「話す」テストの妥当性検証

本科研の成果

6. 発音能力診断テストの開発
7. 日本語論文執筆Can-doリストの作成
8. Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の評価法の開発
9. 日本語教師のための読解問題作成支援システムの開発・改修（読解問題自動生成システム、日本語テキスト語彙・漢字分析器J-LEX）
- 10. 読みの流暢さ測定ツールの開発（初級修了レベル、中級レベル）**

1. 読みの流暢さを高めるために



効率の悪い読みの特徴（田畑サンドーム, 2016）

1. 注視の頻度が高い
2. 一回の注視が長い
3. 戻り運動の頻度が高い
4. キーワードや部分再読ができない
5. 精密な読みと荒い読みをバランスよく行えない

効率の悪い読みから、流暢な読みへ

読みが流暢になれば、読み手は・・・

語彙認知に注意を払わなくてもいい



読解文（テキスト）の意味やコンテキスト、読みに必要な背景知識に注意が払える(Grabe, 2009: p.291)

流暢さを高める指導のメリット (Grabe, 2009)

1. 語彙認知の自動化
2. 深く、広い語彙知識の獲得
3. より多くのインプット（読み物・読む経験）の機会
4. 読むモチベーションの向上
5. 更なる学習のための読解へ
6. プライベートでの楽しい読解へ

流暢さを高める指導の 3 ステップ (Nation, 2005)

ステップ 1 : 音読、多読

↓ ができるようになったら、

ステップ 2 : 注意深い黙読 (時間制限や範読あり)

↓ ができるようになったら、

ステップ 3 : 速読 (スキミング、スキヤニング)

流暢さの指導の難しさ

(Tabata-Sandom, forthcoming)

学習者（教育機関、教師）の認識は・・・

- 黙読（多読）は宿題でいい
- 速読も授業外にできる
- 難しい読解文を読みたい
- 読解文は完璧に理解したい
- そもそも速読って何？

日本語教育における精読・速読

(川本, 2002など)

精読

1. 初級の復習
2. 漢字・語彙・文法・文型の導入
3. 文の構成・省略部分・指示語の指示内容・接続表現の確認
4. 大意の把握
5. 読点、文字のニュアンスの理解
6. 音読練習
7. 辞書の利用法

速読

1. 前段階：内容の推測、背景知識の確認、重要語彙の導入
2. 読み段階：大意（筆者の伝えたいこと）の把握
3. 後段階：文の構成・展開・特徴を確認、感想・意見の交換

それって速読？？？ (田畑サンドーム, 2016)

注意点 1 : 早く読むことを目的とせず、書き手の伝えようとする意味に注意がむいている

注意点 2 : 「流暢さのかわりに正確さが犠牲になっている」という誤解を生まない

注意点 3 : 簡単な読解文を使って指導・学習する

読みの流暢さを高めるために

(Tabata-Sandom, 2016)

子どもたち
にも！

- 日本語の読解について学習者がバランスのとれた認識を育めるよう、初級の段階から流暢さを育む指導が行われるべき
- 上級の段階で新しい流暢さを育む指導方法を導入する場合は、効果があることがリサーチで証明されていることを学習者に積極的に伝えるべき

**初級修了レベルの読みの流暢さ測定ツール
(=速読教材) をつくろう！**

2. 読みの流暢さ測定ツール (初級修了レベル) の開発



読みの流暢さ測定ツールの開発手順

1. 読解文の作成
2. 読解文の難易度判定
3. 読解文の修正
4. 内容理解問題（テストアイテム）の作成
5. テストアイテムの難易度判定
6. テストアイテムの修正

開発手順： 読解文の作成

1. A4サイズの紙に入る語数（400語・700字程度）を
日本語テキスト語彙分析器（J-LEX） で確認
2. 総ルビ
3. 脚注・挿絵は無し

開発手順： 読解文の難易度判定

4. 初級修了レベルの語彙（1285語、旧JLPT 3・4級）
をJ-LEXで確認
5. 既知語率（テキストカバー率） 95～100%
6. 固有名詞の数を抑える
7. 初級修了レベルの文法（初級前半・後半、旧JLPT 3・4級）を学習項目解析システムで確認

開発手順： 読解文の修正

1. 修正で文の内容が変わらないように注意する
2. 学習項目解析システムの中級前半以上の文法項目を旧JLPT 3・4級の文法項目に修正する

開発手順： 読解文の修正

3. 文章内で説明した語は修正しない
4. J-LEX・学習項目解析システムに含まれない語・文法項目（果物の名前など）でも、旧JLPT 3・4級の語彙・文法リストにあれば修正しない
5. J-LEXに含まれないカタカナ語でも、使用可能リストにあれば修正しない

使用可能なカタカナ語（111語） 松下達彦氏の提案

マンション、ママ、ダンナ、ビール、マン、キス、センチ、バッグ、ショック、ドル、クラブ、ケース、バー、メモ、カード、トラック、タオル、ライト、ゲーム、バック、ホーム、スピード、ビデオ、ワン、エンジン、チャンス、ロック、ピンク、ラン、マイ、カー、プロ、スイッチ、メール、セックス、キー、ミス、ショー、エネルギー、ドレス、セット、シート、マスコミ、ハウス、ボックス、デート、メッセージ、メンバー、ブルー、アップ、デザイン、ゴム、バランス、トップ、スター、サイン、シー、バイク、クリスマス、ジュース、ファン、コース、ジャケット、ベルト、マーク、クリーム、ナンバー、パンツ、ビニール、ラーメン、リスト、カップル、ノー、トラブル、ドラマ、スープ、ハイ、コード、ランド、レンズ、ラブ、オレンジ、バンド、ブレーキ、タイミング、ビジネス、スタンド、シーン、ショップ、スタート、ミルク、スタイル、スペース、アイス、ダウン、ダブル、オッケー、フル、サイズ、パワー、チーズ、アイ、ピン、ウイルス、コーナー、カット、ヘア、ドライバー、コンビニ、タイトル、サッカー

開発手順： テストアイテムの作成・難易度判定

1. 4択の内容理解問題 13問
2. 最初の問題は「この話は [] についてです。」に統一
3. 語彙と文法の難易度判定は読解文と同様
4. 細かい数字は問題にしない
5. 読解文を読まなくても解ける問題にしない

開発手順： テストアイテムの修正

1. 読解文と同様の手順で文法・語彙を修正する
2. 日本語教師に解答してもらって修正する
 - 読解文を読まなくても正解できる
 - 正解の選択肢が複数ある
 - 類似問題がある
 - 語の記憶力を問う問題が多い
3. 必要ならば読解文を再修正する

J-LEX

ら、男の人よ、与典を使って結婚する女の人を採すことにしました。こうして、ハワイにいる男の人と、日本にいる女の

頻度レベル:

1286 位以上 位以下を赤でハイライト

ベース **留学生用(語彙)** 通常

【げん】での判定: on off

再判定

た。与典とは違つ方のへを見し、ひつくりひに女のへも多かつたてです。

指定範囲外のテキストカバー率 94.5 %

超上級 (16001位以上)

0 0 0 0 0

リストに該当なし

0 0 0 0 0

合計

401 2 0 1 13

学習項目解析システム

入力テキスト

今から100年以上前の1868年から、20万人以上の日本人がハワイへ働きに行き、「移民」になりました。「移民」は外国から来て、働いた人です。ハワイの日本人の移民の毎日は、大変でした。一日に10時間も働いたそうです。休みは一週間に一日しかありませんでした。お金もあまりもらえませんでした。移民は若い男の人で、一人でハワイに行っていました。そのころは、ハワイには日本人の女の人もいませんでした。また、日本人の男の人は、アメリカ人の女のひとと結婚できませんでした。男の

解析結果:



文法項目

語彙項目

集計

表示レベル: 初級前半 初級後半 中級前半 中級後半 上級前半 上級後半

Show 10 entries

Search:

文ID	入力文	項目ID	レベル	項目表記	意味用法機能	典型例
S00001	今から100年以上前の1868年から、20万人以上の日本人がハワイへ働きに行き、「移民」になりました。	1871	上級前半	数量詞+から	数量の多少	その説明会には1000人からの人々がつめかけたと言う。
S00001	今から100年以上前の1868年から、20万人以上の日本人がハワイへ働きに行き、「移民」になりました。	1870	中級前半	数量詞+いじょう	基準	体重が45キロ以上なら献血できる。
S00001	今から100年以上前の1868年から、20万人以上の日本人がハワイへ働きに行き、「移民」になりました。	283	上級前半	いじょう	理由	学生である以上、勉強はしっかりやらなければならない。

3. テストアイテムの精選



目的

- 読みの流暢さ測定ツール（10本）の内容理解問題を分析（古典的テスト理論）し、13問から10問（Quinn, Nation and Millett, 2007）に精選すること。

方法

- 調査期間：2016年8月～12月

- 調査協力者：

1. 63名（ツール1本に24名以上）

※点双列相関係数（I-T相関）が0.4以上ならば良問と想定、80%以上の確率で有意

2. 初級修了～上級レベル

中国、アメリカ、オーストラリア、イギリス、韓国、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、マレーシア、タイ、インドネシア、バングラデシュ、メキシコ、コロンビア

方法

- 調査用紙： 紙媒体（日英中）

1. アメリカンサモア（49名）
2. ハワイへ行った日本人（48名）
3. ニューージーランドの鳥（27名）
4. ハロー・キティ（26名）
5. 赤いろうそくと人魚（26名）
6. バービー人形とリカちゃん人形（26名）
7. 寝る時間（26名）
8. 日本の習慣（34名）
9. ジョン・万次郎（17名）
10. ダイエット（21名）

方法

- 手順：

1. 調査方法の説明、同意書への記入
2. 練習
3. 本施行：読み時間の測定、テストアイテム回答
4. フェイスシートの記入

方法

- 調査方法の説明（教示）：
 1. これから日本語の文を読んで、それについての質問に答えてください。
 2. 先生が「始めてください。」と言ったら、文を速く読んでください。後でその文についての質問があるので、読む時、内容（＝何が書いてあるか）にも注意してください。
 3. 読んでいる時、声を出さないでください。紙に何も書かないでください。

方法

- 調査方法の説明（教示）：
 4. 読んだ後、前を見てください。黒板／スクリーンに時間が書いてあります。その時間を紙に書いてください。
 5. その後、次のページの質問に答えてください。質問に答える時、前のページ（おもて）の文を見ることはできません。
 6. 質問の答えは、日本語の文の内容に合ったものを選んでください。
 7. 質問に答え終わったら、次のページを見ないで待ってください。

方法

- 分析方法：古典的テスト理論
 1. 項目難易度：その項目に正答した人数÷受験した人数)で算出、最適な範囲は、**.30～.70**
 2. 弁別指数（U-L指数）：得点の上位27%群と下位27%群の正答率の差を算出、最適な範囲は、**.40以上**
 3. 点双列相関係数（I-T相関）：テストアイテム得点とテスト総合得点との相関係数を算出、最適な範囲は、**.40以上**

結果：ハロー・キティ（26名）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
困難度	1.00	0.81	0.81	0.96	0.96	0.73	0.81
弁別指数	0.00	0.29	0.43	0.14	0.14	0.71	0.29
I-T相関	—	0.14	0.54	0.30	0.20	0.65	0.29

	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13
困難度	1.00	0.69	0.77	0.92	0.77	0.73
弁別指数	0.00	0.57	0.71	0.29	0.57	0.71
I-T相関	—	0.46	0.69	0.59	0.55	0.65

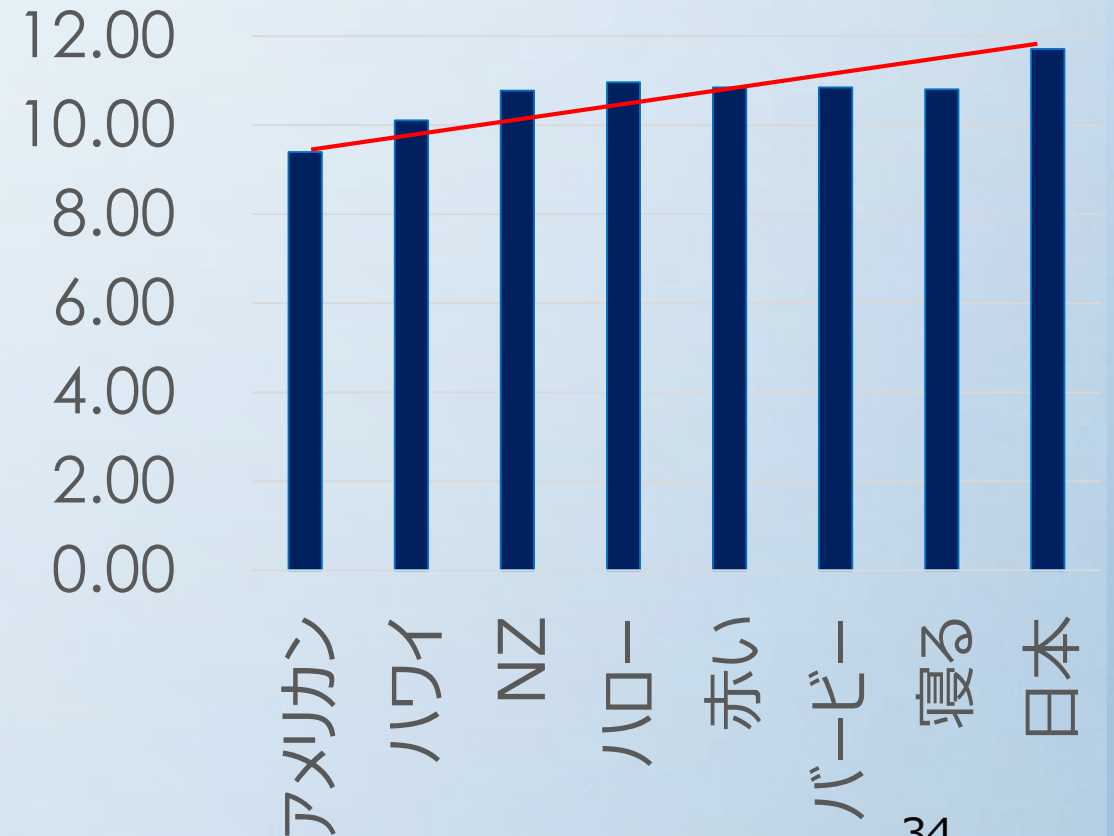
結果：

- 読み速度：有意差なし

($F(7,250) = 1.43, p = .193, \eta^2 = 0.04, Mean = 3分22秒$)

- 困難度：有意差あり

($F(7,250) = 3.49, p < .001, \eta^2 = 0.09$)



進捗状況

- 延べ316名のデータを追加し、再分析中
- 読みの流暢さ測定ツール（10本）の困難度・読み速度が同程度になるよう調整
- 13問から10問に精選

今後の課題： ツール開発から公開へ

1. 初級修了レベル 10本の修正
2. 中級レベル（4000語レベル, 450語） 10本の開発
3. テストアイテム 10問の妥当性検証
4. 学習者の特性による分析
5. オンライン自習サイトの公開

科研成果報告サイト 4月公開予定



日本語の自律学習・アセスメント・テスト支援サイト

Computer Assisted Autonomous Japanese
language learning, Assessment and Testing

読みの流暢さに関する研究課題

1. 速読・多読の効果とは何か
2. 速読・多読に必要な時間はどのくらいか（教室内外）
3. リーダビリティをどう設定するか
4. 学習者特性の影響は
5. 足場かけとなる事前情報とは（年少者）
6. 速読・多読にプラスの波及効果をもたらすアセスメントとは

参考文献

- 川本喬. (2002). 中級段階の読解授業. 早稲田大学日本語教育センター紀要, 15, 29-41.
- 中石ゆうこ, 建石始. (2016). 外国につながる子どもたちのための語彙シラバス. 森篤嗣編『現場に役立つ日本語教育研究シリーズ 第2巻 ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版, 231-251.
- 田畑サンドーム光恵. (2016) 速読トレーニングの実践. ひろしま日本語教育研究会配布資料.
- Tabata-Sandom, M. (2016). Interview: Learning the core concept of extensive reading from Richard Day. *The Language Teacher*, 40(6), 14-17.
- Tabata-Sandom, M. (forthcoming). L2 Japanese learners' responses to pleasure reading, speed reading, and translation. *Reading in a Foreign Language*.

- Grabe, W. (2009). Reading in a second language: Moving from theory to practice. The Cambridge applied linguistics series. New York, NY: Cambridge University Press.
- Nation, I.S.P. (2005). Reading faster. *PASAA*, 36, 21–37.
- Quinn, E., Nation, I. S. P., & Millett, S. (2007). Asian and Pacific speed readings for ESL learners. *ELI Occasional Publication*, (24).
- Williams, R. (1986). Top ten principles for teaching reading. *ELT Journal*, 40(1), 42–45.



ご質問・ご意見をお待ちしています。

tomokow@hiroshima-u.ac.jp

本研究は、2013年度JSPS科研費25284096
基盤研究（B）『アーティキュレーションを保証する言語能力ア
セスメント実施支援システムの構築』（研究代表者：渡部倫
子）の助成を受けた。